

## 呑川レポート 2015-4

### なにが真実か？その1ー感潮域・カルガモ親子

特別な猛暑が続いた今夏も、ようやく峠を越えようとしています。

「呑川の会」では現在、小学校の「呑川学習」、地域の「展示イベント」などに追われていますが、それらを進めながらも、「呑川読本」とでも言うべき「新版・呑川は流れる」の発行準備を進めることは大きな課題です。ただ、「活字」にするにあたって、ためらうことがいくつもあります。

多くの人は、「ここには、こう書いてある」と参考文献を上げると、それを信じてしまう傾向があります。呑川に関しても、「呑川読本」には、こう書かれている・・・とそれを絶対化されてしまう可能性を心配しています。それだけ「活字」という形態に、特別の信頼を寄せる方が多いのでしょう。

ですから、なによりも「なるべく自分の目で見て確かめる」ことを大切にしたいと思っています。

1) 「感潮域」は、「池上橋」までか？

呑川は潮の干満の影響を受ける「感潮河川」です。

そして、潮の上がるのは「二国」を渡る「池上橋」までと言われています。

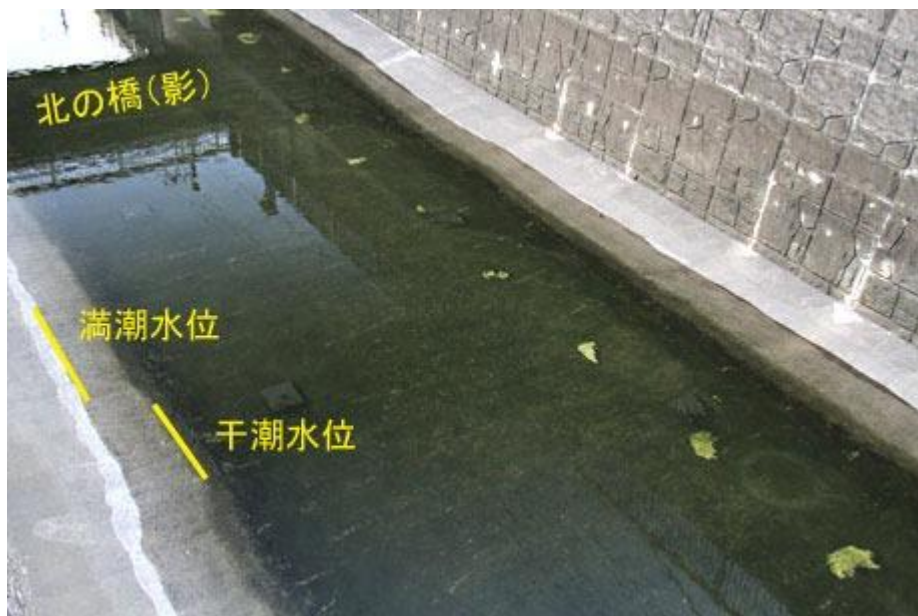
そのことは多くの人が知っていて、それを誰に聞いたかハッキリ判らないほど「自明の理」になっています。そこで、行政の文書を含めていくつかを調べて見ましたが、どれも「池上橋まで」と書かれているので、間違いの無い「真実」のように見えます。私たちは、「そう書いてあるからには、きっと、どこかの誰かが、調べて確認したのだろう」と、思い込んでしまいます。しかし、そのどれもが、自分で調べて「池上橋まで」と確認して書いている訳ではないようです。

ですから、じっさいに「満潮」時に見てみると・・・



これは「池上橋」から、さらに上流方向をみた情況です。ふだんは、「池上橋」から上流は、兩岸の傾斜部分に水がかからず、コンクリート河床が見えています。

ところが「満潮」になると、上の写真のように、川幅いっぱいにながりが広がり、向こうに見える「北の橋」まで、水位が上がっています。



ここは、「池上橋」を上流側に越えた「北の橋」付近です。「干潮」時の水位に比べ、「満潮」時は水位が上がっているのがハッキリ判ります。じっさい、「大潮」の満潮時には「池上橋」どころか、「北の橋」を越え、「長栄橋」付近まで潮は上がる時があります。

「・・・と、言われている」「文献に・・・と書かれている」と言っても、それは絶対で無く、出来るだけ自分で確かめることはとても重要だと感じています。

## 2) カルガモの「ヒナ」は、「大水」に流されたのか？

毎年、初夏になると、呑川ではカルガモの「子連れ」の姿が見られ、その可愛らしさに目を細めます。



これは、会員の菱沼さんが「太平橋」付近で撮られた写真です。この時は「3羽」のヒナがいました。後から判ったのですが、ご近所に住む方にお聞きしたら「つい最近まで、5羽いたのよ」とのことでした。ところが・・・



私が見つけた時は、わずか「1羽」のヒナがいただけでした。なんと悲しいことでしょう・・・

毎年見られる、この悲しい出来事の「原因」は、雨の時の「大水」で流されてしまうのだそうです。

「呑川」に限らず、多くの川でヒナが減っていく様子がブログなどで報告され、決まったように「大雨で流された」と書かれていて、それ以外の記述を見つけることが出来ません。たしかに、私も同じようには感じています。



「川の水」は、絶えず流れています。

つまり、常に泳いでいないと、下流に流されてしまいます。

ですから、「泳力」の無いヒナは、少し泳いでは、流れの無い「犬走り」などに上がって「歩いて」いるのを見かけます。

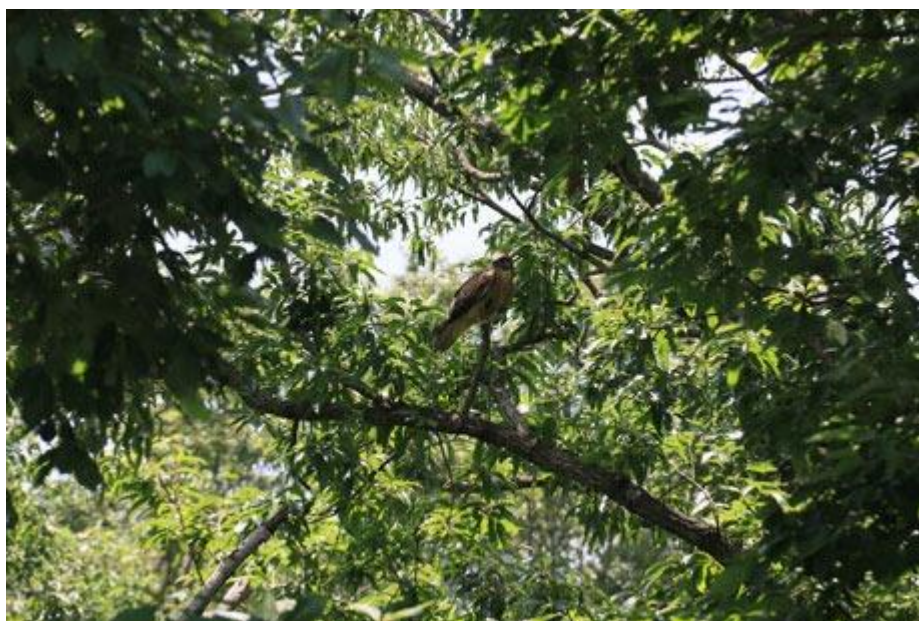
また、「犬走り」のような、水の流れの無い場所では、ゆっくりと休憩をとっています。「体力」もまだまだ不十分なのです。こういう姿を見ると、ヒナが大雨の流れには逆らえず、「水に流される」のは当然のように思えます。いっぽう、大人のカモは「飛翔力」がありますから、飛んで逃げることが出来ます。しかし、ブログなどの報告を見る限り、誰もヒナが水に流された場面を実際には見てはいないようです。見ていないけれど、当たり前のように「大水で流された」と書いているのです。それ以外に考えられないのでしょうか・・・

しかし「大水に流されて」、全てのヒナが、「一変に」消えることはなぜないのでしょうか？どうして、少しずつ減っていくのでしょうか？

多くの生きものには、「天敵」が存在しています。1998年6月の会報「のみがわ」に、猛禽類の「チョウゲンボウ」が、呑川上空をしばしば飛んでいたことが、増田直也さんから報告されています。（「呑川は流れる 2004」にも転載されています）多くの「猛禽類」は、カラスと違って、「死肉」で無く、「生きたエサ」を食べることが知られています。

実際、大田区にある「東京港野鳥公園」では、「オオタカ」がしばしば現れ、カルガモを捕獲しているところが目撃されています。おいしそうなカルガモのヒナがいれば、「猛禽類」が嗅ぎつけ、呑川を狙ってくることは当然のことかもしれません。それならば、少しずつヒナは減って行くでしょう・・・

ただ、私は上空に飛ぶ「猛禽類」を見分ける力がありません。そこでこの夏、山に入った時、「猛禽類」を探して見ることにしました。



葉が生い茂っていて、なかなか見つけれられません。

でも、やっとなんとか、ワシ・タカの仲間らしい鳥を見つけました。



写真を拡大して見ましたが、図鑑とにらめっこしても、これがオオタカなのか、ハヤブサなのか、チュウヒなのか、サンバなのか、チョウゲンボウなのか・・・どうにも判りません。（ぜひ、誰か教えていただきたいと思います。）近くで、しばしば見ることの出来ない「猛禽類」・・・その識別は、なかなか難しいことを知りました。カルガモのヒナが、どうして少しずつ減っていくのか・・・？それを追い詰めていくのは、かなり時間が掛かりそうです。

色々なことが「・・・と、言われている」「・・・が原因である」と流布され、それが「常識」にもなっています。たとえそれが、「他河川」では「常識」であっても、この「呑川」ではどうなのか・・・それを解き明かすのは、我々がやる以外にはありません。

ただ、ヒマな時に、「呑川」に行きさえすれば、すぐ原因が明らかになる訳ではありません。どんなテーマでも、追いつけて2, 3年はすぐ掛かってしまいます。みんなの協力で、「呑川」での実態を少しでも明らかに出来ればと思います。

\*次回もまた、「・・・と言われているが、呑川での実際は？」を追いつけようと思っています。

----- (当面の予定) -----

忙しい8月でしたが、9月もまた予定がギッシリです。多くの方のご参加をお待ちしています。

- ・「矢口渡・歌舞伎のふるさと祭り」展示打合せ 8/31
- ・「呑川グランドデザイン」おおまかな検討終了予定 8/31
- ・「洗足区民センターさくらまつり」打合せ 9/2 10:00 区役所
- ・「下水道の合流改善」相談 9/3 13:30 東工大吉村先生
- ・「呑川の会・定例会」 9/10 (木) 13:30 ふれあいはずぬま・第2集会場
- ・「久原小・呑川学習」 9/11 (金) 13:50 久原小学校
- ・「呑川ネット・定例会」 9/17 (木) 10:00 生活センター
- ・「矢口渡・歌舞伎のふるさと祭り」9/27 (日) 大田区民プラザ

-----photo essay by-----

高橋 光夫